

霊明殿

宸殿の北東側に位置する祈祷のための建物である霊明殿の上には、宝珠が飾られている。この建物は 1911 年に、仁和寺の末寺の喜多院の本尊であった薬師如来像を収めるために建てられた。この建物は、杉皮葺きの屋根と、繰り返し使われている唐草文様との組み合わせが独特である。唐草文様は、京都の職人、亀岡末吉（1865～1922 年）が好んでよく用いたデザインである。亀岡は古典的な日本の建築の特徴に現代的なデザインの要素を融合させたことで知られている。位牌堂であるこの建物には、図像があり、薬師如来像が本尊となっている。癒しまたは医の仏陀である薬師如来は、もともと喜多院にあったものであり、空海（774～835 年）が中国から日本にもたらしたと考えられていた。空海は仁和寺が属する真言宗の創始者である。この薬師如来は「秘仏」と呼ばれ、超自然的な力が非常に強いため、一般の信徒はもちろん、ほとんどの僧侶もそれを見ることはできないように隠されてきた。しかし、1986 年に仁和寺はこの像の科学的な調査を許可し、その正確な制作年代が特定された。この調査により、この像は従来考えられていたほど古いものではなく、実際、1101 年に火事によって焼失した空海の肖像の複製であるということが明らかになった。かわりの像が 1103 年に完成したが、それがこの像だったのである。現在では霊明殿で見ることができるこの像は、1990 年に国宝に指定された。